

令和7年度
オープンデータ推進事業
アイデアソン実績報告書



令和8（2026）年3月

主催：那覇市

企画運営：アイパブリッシング株式会社

目次

目的	1
実施詳細	1
アイデアソン内容	2
インプット（座学）	2
アイデアソン	3
受講生の発表内容	4
アンケート結果	14
アンケート考察	21
アイデアソンから見えてきたこと	23

目的

市民（市民活動団体、企業、等）が、どのようにオープンデータを活用して地域課題にアプローチしているのかを、職員が実際に体感し理解を深めることで、市民との対話を通じたオープンデータ活用の可能性を広げる。また市民にとっても、那覇市の現状や課題を職員から直接聞く機会となり、あわせて「公開してほしいデータ」の要望を伝えることができるなどの関わりが生まれる場となる。このような対話の場を通じて、参加者全員が「オープンデータ利活用の当事者である」という意識を持つことを目指す。

職員と市民がフラットな関係で 地域課題に向き合う「共創の場」

実施詳細

タイトル：「オープンデータで考える那覇市の未来」

日時：2025年12月13日（土）13:30～17:30

所要時間：4時間

会場：八汐荘 中会議室（全室）

対象者：市民（学生、民間企業、市民団体等）、シビックテック関係者、那覇市職員

参加者数：30名（一般参加者：24名、那覇市職員6名）



インプット（座学）

- オープンデータ入門（基礎知識）
- 那覇市のオープンデータ取り組み紹介
- 那覇市の観光・経済の課題の説明



アイデアソン

- 那覇市の「観光経済」をテーマにグループワークを行った。
- グループで考えたアイデアの発表

全国的にシビックテック(市民自らがICTを活用して行う地域課題解決活動)やオープンデータの見識が高く、日本初のシビックテックコミュニティである一般社団法人コード・フォー・カナザワの代表理事を務めている。福島氏は市民活動として様々な地域課題解決プロダクトを作ってきただけでなく、オンラインも含めた市民活動研修を全国で依頼され行なっている。



メイン講師：福島 健一郎氏

アイデアソン内容

インプット（座学）

オープンデータ入門（基礎知識）

オープンデータ入門では、オープンデータの基礎知識について解説しました。オープンデータの定義には「①営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、②機械判読に適したもの、③無償で利用できるもの」という定義があること、「①国民参加・官民協働の推進を通じた諸課題の解決、経済活性化、②行政の高度化・効率化、③透明性・信頼の向上」という意義があること、といった基礎的な内容から、機械判読性や二次利用可能なルールとは具体的にどういうことなのか、についてお話ししました。

そして、官民協働によるオープンデータを利活用した国内外の事例を紹介し、行政と市民が「共創」する社会のあり方、そして沖縄県内でのオープンデータ取り組み状況に加え、オープンデータの公開場所について、紹介をしました。

那覇市のオープンデータ取り組み紹介

那覇市のオープンデータの取組について、那覇市DX推進課より説明がありました。これまでに利用規約や推進指針を策定し、データの公開やカタログサイトへの集約を進めるなど、推進体制を段階的に整備してきたことが紹介されました。市の総合計画やDX推進計画にオープンデータ推進目標を設定し、計画に基づいた取組が進められており、現在は35種類のデータを公開していることが説明されました。今後は、利活用者の声を踏まえながら、データの拡充と活用事例の創出を目指していく方針についても共有されました。

那覇市の観光・経済の課題の説明

那覇市の観光・経済に関する課題について、那覇市観光課より説明がありました。本アイデアソンのテーマが「観光経済」であることから、参考情報として那覇市が現在抱えている課題を共有いただきました。紹介された主な課題は、以下の5点です。

- 観光消費額の伸び悩み
- 交通渋滞の発生
- 他言語での観光案内等の不足
- 観光環境の悪化
- 生活環境等の悪化

💡 アイデアソン

アイデアソンとは、「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語です。テーマを決めてアイデアを出し合い、それらをまとめて形にしていくワークショップになります。今回のテーマは那覇市の「観光経済」にて、アイデアソンに取り組んでもらいました。

「那覇市オープンデータアイデアソン」の進め方は以下の通りです。

- ①那覇市の「観光経済」の中で感じる課題を考える
- ②その課題を解決するアイデアを考える
- ③アイデア実現に必要なデータはなにかを考える

事務局にて事前に決めたチームに分かれ、そこには那覇市職員も参加し、那覇市の「観光経済」について考えました。事務局で用意した模造紙に、「観光経済」にまつわる課題を付箋紙に書いて貼り付けていきました。

その時、気をつけてほしいことは、「声に出して読んで貼る(聞いてあげる)」、「ほめる(良いものはどんどんほめる)」、「活用する(それに乗っかって書く)」であると参加者に伝えました。課題をどんどん出したあとは、なぜそのような課題があるのか、他の課題と関連していないか、と突き詰めて考え、発見したことがあればさらに付箋を貼っていきます。そうすることで、本質的な課題に近づいていきます。

本質的な課題を見つけた後は、アイデア出しをしていきます。そうすることで、たくさんのアイデアが出てきますが、その中から具体化させたいアイデアを決めて、アイデアソンシートに落とし込みます。

まずは個々人でアイデアソンシートに落とし込み、チーム内で共有してベストな解決策を「課題への解決性」「実現性」「シンプルさ」の点を考慮して選び、その解決法をブラッシュアップして、チームの課題として、発表しました。



チームメンバー() アイデア名称()		6W4H Why: どうしてこれが必要なのか What: どういうアイデアか Who: 誰が実行するのか Whom: ターゲットは誰か When: いつ実施するのか Where: どこで実施するのか How: どのような手段でやるのか
現状と課題	必要なデータ	How long: 実施期間 How many: 成功の目標値はどうか How much: 予算

受講生の発表内容

グループ①

アイデア名：那覇市内への車の流入量の減少と交通量の減少

現状と課題：那覇市内の朝夕の交通渋滞が悪化している

アイデア詳細：リアルタイムのオープンデータを活用して、那覇市内から流入してくる各市町村から来る車を減らす。混雑時を避けた場合にお弁当などが安くなるチケットを発行したり、リアルタイムのオープンデータを活用して交通状況をマップ化し可視化して利用してもらう。また、それらのデータを活用して、行政側からも条例を制定することで、那覇市への車の流入量を減らせるようにする。

6W4H

Why：市内の交通渋滞が年々悪化しているから

What：リアルタイムのオープンデータの活用
(スマホからの人流データ)。

交通規制の強化

Who：那覇市、道路管理者

Whom：県民、観光客

When：5年以内

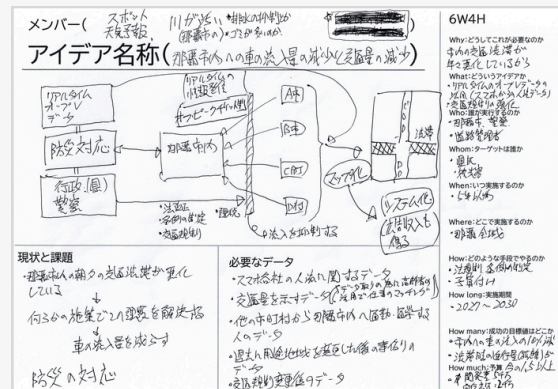
Where：那覇全域

How：法規制条例制定、予算付け

How long：2027年から2030年

How many：市内への車の流入の10%減。
渋滞時の進行速度が今の1.5倍以上。

How much：開発費5千万円、宣伝広告2千万円



必要なデータ

- スマホ各社の人流に関するデータ
- 交通量を示すデータ
- 他の市町村から那覇市内へ通勤・通学する人のデータ
- 過去の用途地域を変更した後の事例のデータ
- 交通規制変更後のデータ

講評

現実的には良いアイデアだと思います。ただし、リアルタイムのデータが重要となるため、導入や運用には費用がかかります。それをどのように実現していくかが課題になると思います。

グループ②

アイデア名：ヘルステックオキナワ

現状と課題：夏に観光客が集中することによって発生するオーバーツーリズム

アイデア詳細：沖縄の観光のピークでない冬などに観光客向けの医療サービスを実施することで、オーバーツーリズムの解消になり、その仕組みを県民にも展開して楽しんで受けてもらうことで、健康の向上に繋げる。

観光客の移動と、滞在の平準化を行うために、医療観光の住み分けを行うことで、分散させる。食や運動も含めさまざまなサービスが展開されることで、観光客だけでなく、沖縄県民の健康意識向上にもつながるのではないかと思います。

6W4H

Why：オーバーツーリズムの解消。観光需要の平準化

What：観光移動、滞在の平準化

Who：医療機関、公共交通、OCVB、代表店など

Whom：インバウンド客、健康診断を受けない県民

When：観光客の滞在時

Where：医療機関、観光海水浴場

How：観光客にIoTセンサーを付与

How long：通年

How many：対象者の健康寿命アップ。

交通渋滞緩和、受診率アップ

How much：未定



必要なデータ

- 観光客や県民の健康データ
- 公共交通利用状況
- 観光地の混雑データ

メンバー()	6W4H
アイデア名称(ヘルステックオキナワ)	Why: どうしてこれが重要なのか オーバーツーリズムの解決 観光需要の平準化
沖縄を「事前・治療」と「医療観光」でおおいた人々。県内観光 を組み合わせ、充実した滞在体験を促す。 慢病を予防するメニュー。高齢者層をターゲット。 しかし、滞在者の増加とオーバーツーリズムの発生を防ぐ。自国への 移動の身体的負担の軽減。IoTを付与して健康データを収集。 観光客の滞在時、健康データを収集。健康データを収集。 ↑ 同様の仕組みを県民向けにも展開し、健康意識を高める。 「健康データを収集して健康化」	
現状と課題	Who: 誰が行うのか 医療機関、公共交通、OCVB、代表店など
医療・観光を接近させ、 沖縄観光客の健康寿命を 伸ばす。	Whom: 誰に提供されるのか インバウンド客、健康診断 を受けない県民
観光地の混雑データ	Where: どこで実施するのか 医療機関、観光海水浴場
沖縄県民の健康データ	How: どのような手段でやるのか 観光客にIoTセンサーを 付与
交通渋滞緩和、オーバーツーリズム	How long: 実施期間 通年
	How many: 成功の目標値はどこか 観光客の健康寿命を 伸ばす。健康寿命を 伸ばす。健康寿命を 伸ばす。
	How much: 予算 未定

講評

冬でも楽しめて、健康になれる仕組みだと感じました。医療ツーリズムをやっているとところはたくさんあるので、わかりやすいアイデアだと思います。

グループ③

アイデア名：今日は、どの手段で移動する？

現状と課題：那覇市の渋滞割合が全国に比べて高い

アイデア詳細：簡単な操作で、自宅から会社への一番早く着く手段を教えてくれるアプリ。例えば、通常の車通勤だと30分かかかるが、自転車、徒歩だと10分早く着くことができる。

6W4H

Why：那覇市の渋滞割合が全国に比べて高いから

What：スマホに通勤ルートの子測所要時間を一目で確認できるアプリ

Who：本人（使用者）

Whom：本人（使用者）

When：毎日（移動する場合）

Where：出かける時

How：スマホアプリ

How long：未定

How many：毎日の移動手段で、なんの乗り物が効率が良いかわかるようになる

How much：未定



必要なデータ

- 事故情報
- リアルタイム気象データ
- リアルタイム交通データ

メンバー()	6W4H
アイデア名称(今日は、どの手段で移動する?)	Why: としてこれが必要なのか 那覇市の渋滞割合が全国に比べて高いから What: スマホに通勤ルートの予測所要時間を一目で確認できるアプリ Who: 誰が実行するのか 本人(使用者)
	Who: ターゲットは誰か 本人 When: いつ実施するのか 毎日(移動する場合)
現状と課題 今日はどの手段で移動する? 解決策 移動手段 徒歩 自転車 バイク 車 早く着く	Where: どこで実施するのか 出かける時 How: どのような手段でやるのか スマホアプリ How long: 実施期間 未定 How many: 成功の目標値はどこか 毎日の移動手段で 何の乗り物が効率が良いかわかるようになる How much: 予算 未定
必要なデータ ・事故情報 ・アプリ使用状況の混雑データ(現在)	
・天気予報と組み合わせることで 毎分単位の気象情報 (移動先) ・会社までの交通データ	

講評

シンプルでわかりやすいアプリです。「早く到着できる」という観点に加え、利用者の状況に応じて複数の選択肢を提示できるようになると、さらに利便性が高まると思います。また、Googleマップでは道路の渋滞状況は確認できるが、バス車内の混雑状況までは把握することが難しいです。混雑データの収集方法については工夫が求められるとともに、天気データの取得には一定のコストが発生する可能性があります。

グループ④

アイデア名：水の都 那覇

現状と課題：水生生物がいて、観光のスポットになりそうなのに川が汚い。

アイデア詳細：観光客も参加して川を綺麗にする取り組みを行う。掃除に参加することで、ポイントがもらえ、飲食店での利用や商品と交換することができるようにする。それによって、川をきれいにし食と遊び、癒しのスポット化を目指したい。

6W4H

Why：今は川が汚い。サメやアバサーもいるのにもったいない。

市民の遊び場にもできる。

What：川をきれいにし、食と遊び癒しのスポット化

Who：市内の学生やPTA、観光客

Whom：沖縄県民、観光客

When：授業（学生）、日中（12月～3月を除く）

Where：ガープ川、奥武山付近

How：船や手で取る

How long：未定

How many：川が透明になり、魚が見える

How much：お掃除セットの経費

必要なデータ

- 県外の河川データ
- 那覇市の河川水質データ
- 那覇市の河川水生生物データ



メンバー()	アイデア名称()	6W4H
	水の都 那覇	Why: どうしてこれが必要なのか 今は川が汚い サメやアバサーもいるのにもったいない 市民の遊び場にもできる What: どういうアイデアか 川をきれいにし 食と遊び癒しのスポット化 Who: 誰が実行するのか 市内の学生やPTA 観光客 Whom: ターゲットは誰か 沖縄県民 観光客 Where: いつ実施するのか 授業(学生) 日中(12月~3月を除く) Where: どこで実施するのか ガープ川 奥武山付近 How: どのような手段でやるのか 船 手で取る How long: 実施期間 未定
現状と課題	必要なデータ	How many: 成功の目標値はどこか 川が透明になり 魚が見える How much: 予算 お掃除セット
奥武山 ガープ川 付近の川で 水温橋 (水エアーの下)	遊ぶ(水遊びの川) 飲食店誘致 食事の充実 船遊び お掃除セット(ガープ川)	

講評

ごみ拾いイベントは、参加者が楽しみながら取り組める活動であると思います。みんなで取り組む意識が芽生えて、ごみのポイ捨てを減らそうとする意識の向上にもつながると思います。

グループ⑤

アイデア名：観光名所の混雑状況を可視化するプラットフォーム

現状と課題：観光施設の混雑やそれによる周辺住民生活への支障が起きている

アイデア詳細：施設や駐車場などの混雑状況を可視化することで観光客に混雑を避ける行動を促し、スムーズに観光をしてもらうことで住民及び観光客の満足度を高める。

6W4H

Why：混雑による住民生活の支障を緩和させるため

What：施設や駐車場などの混雑状況を可視化することで、混雑を避ける行動を促し、観光をスムーズにし住民及び観光客の満足度を高める

Who：観光案内所

Whom：観光客

When：観光施設の営業時間に混雑状況の数値を反映

Where：ウェブサイト上で

How：施設やスポットからの混雑状況をデータとして、ウェブサイトに集約

How long：通年

How many：未定

How much：那覇市からサイト作りへの助成

必要なデータ

- 駐車場の混雑状況データ
- お店の予約状況データ



メンバー()	6W4H
アイデア名称(観光名所の混雑状況を可視化するプラットフォーム)	Why: どうしてこれが必要なのか 混雑による住民生活の支障を緩和させるため
	What: どういうアイデアか 施設や駐車場の混雑状況を可視化し、観光客に混雑を避ける行動を促す。観光客がスムーズに観光できるようにする。
現状と課題 観光施設の混雑が周辺住民生活に支障を及ぼしている ・分散 → 予約管理 → お店の営業利益 ↓ (営業時間の活用促進)	Who: 観光案内所 Whom: 観光客 When: いつ実施するのか 観光施設の営業時間に 混雑状況の情報を反映 Where: どこで実施するのか ウェブサイト上で
必要なデータ ・駐車場の混雑状況 ・お店の予約状況 (予約のキャンセル状況)	How: どうやって実施するのか 施設やスポットからの混雑状況をデータとして、ウェブサイトに集約 How long: 通年 How many: 未定 How much: 那覇市からサイト作りへの助成

講評

混雑状況の可視化、実現できるととても良いアイデアだと思います。アイデア実現のためには、混雑データの収集が課題になります。店舗側としては、情報を公開することで利便性向上につながる可能性がある一方、不利益が生じる懸念も想定されると思います。ただし、すでに自店舗の混雑状況を公開している事例もあることから、公開方法や情報の扱い方を工夫することで、導入の可能性は十分に検討できると思います。

グループ⑥

アイデア名：旧琉球王朝

現状と課題：観光単価が低い

アイデア詳細：薩摩藩士となり、琉球王朝を一日かけて堪能し、おもてなしを受ける体験型サービス。琉球王朝を訪れた薩摩藩士になりきり、那覇市内の各スポットを巡りながら、さまざまな体験を行う。例えば、藩邸跡や首里城の見学、琉球料理の食事、宴（組踊）の鑑賞に加え、かごでの移動体験など。富裕層向けのサービスとして展開していきたい。

6W4H

Why：観光単価をあげることと、市内消費を増やすため。

What：琉球王朝を訪れた薩摩藩士になりきって、各観光施設を巡る。

Who：那覇市

Whom：富裕層

When：未定

Where：那覇市内の観光名所や琉球料理が食べられる飲食店など

How：MAP化

How long：未定

How many：行きたい観光スポット1位

How much：未定

必要なデータ

- 史跡一覧
- 県立博物館史料
- 琉球料理が食べられるお店一覧



メンバー()	6W4H
アイデア名称(旧琉球王朝)	Why: どうしてこれが必要なのか ・文化、伝統に誇りを持て る。
	What: どういうアイデアか ・文化、伝統を体験できる 1日ツアー
	Who: 誰が実行するのか ・観光バス
	Whom: ターゲットは誰か ・観光客
	When: いつ実施するのか
	Where: どこで実施するのか
	How: どのような手段でやるのか
現状と課題 ・文化伝統を継承するための、観光と結び つける。(現状: 生活の場、結びつかない) ・県民愛がうすれ、沖縄が独自に持つ 魅力が失われつつある。 ・単価を上げる	How long: 実施期間
必要なデータ	How many: 成功の目標値はどこか ・沖縄観光スポット 1位 行きたい How much: 予算

講評

薩摩藩士になって琉球王朝時代のおもてなしを体験するサービスは、オリジナル性のあるアイデアだと思います。文化はデータとしても価値があり、首里城など沖縄の見所はたくさんあるので、データを絡めて考えるとアイデアが良いものになると思います。

グループ⑦

アイデア名：沖縄の観光立県差別化戦略の立案

現状と課題：具体的な戦略や着地点が観光の文脈で見えておらず、客観的に沖縄の観光について知る必要がある

アイデア詳細：さまざまな観光にまつわるデータで現状分析を行い、あるべき姿を定義してターゲットやコンテンツの絞り込みを行うことで、戦略を組み立てる。

6W4H

Why：戦略性を持った投資が必要であるから

What：沖縄県の観光について分析を行い、戦略を立てる。

Who：県

Whom：観光客

When：今から

Where：県

How：未定

How long：やることによって1年などで見直しが必要

How many：内容による

How much：内容による



必要なデータ

- 観光客の年齢、性別、滞在日数、それぞれの消費額データ
- GPXデータ
- 決済データ
- 他国のモデルケース
- コンテンツの人気度データ
- 顧客の望むもの調査データ

メンバー(あおやま)		6W4H
アイデア名称(沖縄の観光立県差別化戦略の立案)		Why: どうしてこれが必要なのか 単発性も考慮
現状分析 ↓各種データ ↓消費額・滞在日数 ↓その他 ↓あるべき姿 ← ターゲットの絞り込み ← コンテンツの絞り込み ↓(ToDo作成) → 各種戦略へ		What: どういうアイデアか
現状と課題 具体的な戦略 = 着地点 ・旅行機材 ・観光客が希望するサービス ・外から沖縄を見せる		Who: 誰が実行するのか 県
必要なデータ [基本] ・年齢、性別、滞在日数、その他の消費金額、GPXデータ、決済 ・他国のモデルケース ・他のコンテンツの人気度 ・顧客の望むもの調査 ・沖縄の観光立県としてのSWOT分析		Whom: ターゲットは誰か 観光客
		When: いつ実施するのか 今
		Where: どこで実施するのか 県
		How: どのような手段でやるのか
		How long: 実施期間 10月~12月
		How many: 成功の目標値はどこか 見直し期間 10月
		How much: 予算 内容による 戦略内容による

講評

現状分析が十分でなければ、効果的な施策の立案は難しい。既存の統計データや各種調査資料も多数存在すると考えられることから、それらを活用し分析を深めることで、新たな視点が得られる可能性があると思います。

その他のアイデア

アイデア名：那覇市バイラルマーケティング

現状と課題：限られた資源を活用できていない

アイデア詳細：SNSなどの口コミを通じて、那覇市のスポットや魅力を発信し、人から人へ拡散してもらえるようにマーケティングを行う。

アイデア名：かりゆしウェアならぬ、かりゆしアンブレラの普及

現状と課題：紫外線が強く暑いのに、日陰が少なくて歩きにくい

アイデア詳細：GISから現在の日陰データをリアルタイムで発信し、沖縄らしいかりゆしアンブレラを市民、観光客に使ってもらう。

アイデア名：すいすいゆいレール

現状と課題：通勤時間帯に大きな荷物で車内が塞がれ混雑し、乗り込むことができない

アイデア詳細：ゆいレール混雑情報を発信し、乗り降りがおすすぬな車両を案内する。



アイデア名：リアルタイム混雑マップ・オフピークチケット

現状と課題：日本人の混雑だけでも解消したい

アイデア詳細：リアルタイムの混雑マップを作る。また、企業や家族ごとに、オフピーク時に割引チケットを受け取れる仕組みを作る。

アイデア名：ナイト観光で沖縄の魅力を発信し伝統文化を継承する

現状と課題：沖縄には、夜にお酒を楽しむ場所以外の観光スポットが少ない

アイデア詳細：国際通りを21時まで通行止めにして、パフォーマンスを行う。

アイデア名：もっと長い時間、すごしやすく、儲かる国際通り

現状と課題：物販と飲食ばかりでくつろげる場所が少なく、疲れて帰りたくなる

アイデア詳細：リラックスコンテンツ（休憩/カフェゾーン）の配置と、歩行者天国の拡充を行う



アイデア名：ザル経済脱却のための県産品地産地消ブランドの展開

現状と課題：沖縄県がザル経済になっている

アイデア詳細：沖縄県内で縫製したもののみ「かりゆし」と認めるように、県産品のみに使っているものをブランドとして展開する。

アイデア名：観光地分散マップ、周遊バス

現状と課題：観光客が知っている観光地が限られているため、特定の場所に人や車が集中し、渋滞が発生している

アイデア詳細：有名どころの観光地、琉球王国ゆかりの地などをまとめたMAPを作成し、そこを巡る観光周遊バスを運行する。

アイデア名：高齢者 観光人材マッチング

現状と課題：観光人材の不足になっている

アイデア詳細：沖縄らしいコミュニケーションの力を使って観光消費額をあげるために、高齢者を活用したコミュニケーションを元にした観光人材の育成を行う。



アンケート結果

アンケート回収率

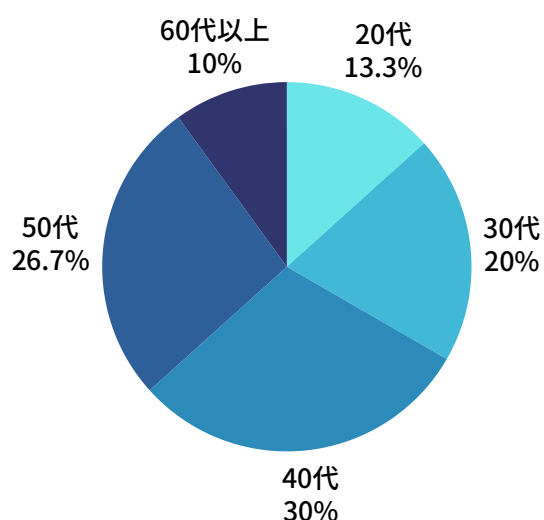
参加者：30名（一般：24名、那覇市職員：6名）

回答者：30名

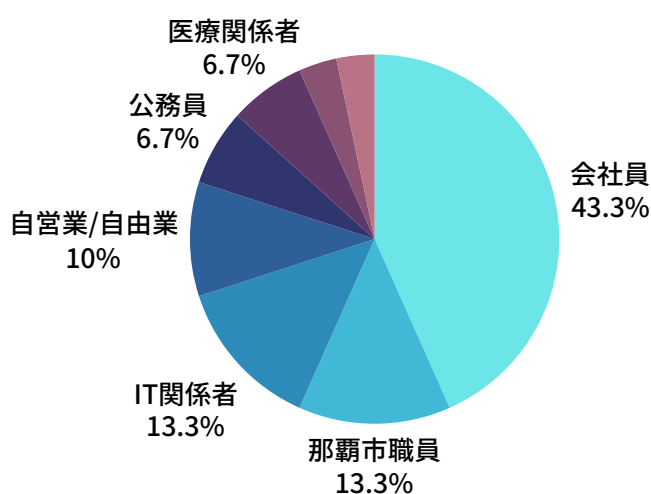
回収率：100%

回収方法：フォーム、紙

① 年代を教えてください。

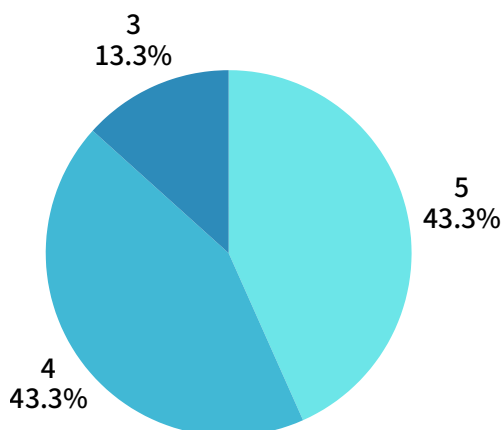


② 所属もしくは業種を教えてください。



③ 本イベントの進行に対する満足度を教えてください。

満足 5 4 3 2 1 不満



④ 選んだ理由について教えてください。 (回答から抜粋)

「5」を選択

- ・時間が短い中でも、深くグループで話し合い、アイデアを深めることができたため
- ・細かくワークが分かれており、考えをまとめやすかった
- ・那覇市の観光問題に関われた事で、更にオープンデータを意識し、沖縄の魅力が上がる様関わっていきたいと感じました
- ・初めてのイベントで不安がありましたが、進め方がわかりやすく、取り掛かることができました
- ・カリキュラムが多く時間がおしていた

「4」を選択

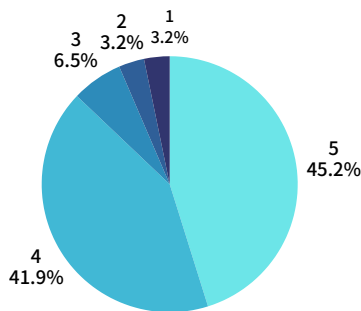
- ・初めてアイデアソンに参加したが、ステップごとにわかりやすく説明があり、取り組みやすかった
- ・ワークの間に一回休憩が欲しかったです
- ・知識のインプットからアイデアソンまでよく理解できた
- ・テンポ良くアイデアを出して、ゴールまで到達できたから

「3」を選択

- ・ワーク時間が短くアイデアの発散の時間をもう少し長めにもち、グループディスカッションの時間ももう少し持たかった
- ・進行は普通。フェーズごとの時間配分は比較的短く、テンポ良く次の議題へ進む形式であった
- ・オープンデータのソースが分かったこと

5 本イベントの満足度を教えてください。

満足 5 4 3 2 1 不満



6 選んだ理由について教えてください。(回答から抜粋)

「5」を選択

- 地元に関心した課題やアイデアを多く知ることができた。また、グループワークでオープンデータの重要性を再認識することができた
- 那覇市民として具体課題と既存データを知ることができ、取り組みのアイデアなどを出しやすかった為、大満足です。勉強になりました
- 具体的な課題をもとに意見交換を行い、オープンデータ活用の意義を実感できました

「4」を選択

- 各方面の方々と議論することで、自身の考えも広がりが出たと感じます
- チームメンバーに恵まれ楽しく議論できました
- 様々な課題やアイデアに触れることができ、またオープンデータの使い方を知ることができたため
- もっとオープンデータについて(利活用方法など)教えてもらえると思っていました

「3」を選択

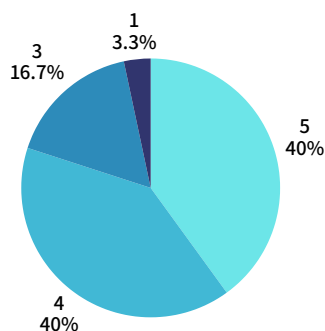
- 時間が短かったため、もう少しワークを深めたかった
- 那覇市の課題について他の人の認識を知れたから

「1」を選択

- 実際にオープンデータの操作・分析する時間は設けられておらず、主にディスカッション中心のワークであった。パソコン持参が案内されていたものの、実際の操作機会はなかった。かつ電源設備は全テーブルで利用できる環境ではなかった、これは考えきれない。またレジュメや進行資料がなく、振り返り用資料が限定的という点が見受けられました。アイデアソン後半では、オープンデータそのものから離れた議論が中心となる場面もあった

7 オープンデータについて理解することができましたか？

理解できた 5 4 3 2 1 理解できなかった



8 選んだ理由について教えてください。

「5」を選択

- 基礎講義がしっかりされていたため
- 普段からよく使ってるから
- オープンデータの見分け方、それを使った課題解決方法を学びました。個人的に使いたいオープンデータのmapがあることを知れてよかったです
- 市職員向けオープンデータ研修も受講しているため、改めて理解を整理することができました
- 目的に応じたデータの選び方を学べた

「4」を選択

- 時間的に実活用は難しいと思うので、実際のオープンデータの活用事例を拝見したかったです
- アイデア実現の構想段階から必要だと改めて理解した
- オープンデータという言葉が初めてでしたが意味と必要性は理解できた
- オープンデータとは？というレベルでの参加だったので、今回定義も含め理解した
- だいたい理解できたと思いますが、もっと深く知りたいです

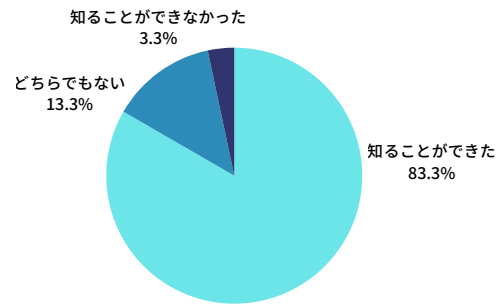
「3」を選択

- 可能性を感じるものの、いろいろ難しいなと感じました
- 時間が短く十分理解できなかった

「1」を選択

- オープンデータがどういうものかの説明のみであれば、正直ネットで調べた方が早い

9 オープンデータの取得方法を知ることができましたか



10 選んだ理由について教えてください。(回答から抜粋)

「知ることができた」を選択

- 時間がなくデータの検索にまでは至らなかったが、後日資料も基に自分で調べたい
- 那覇市のオープンデータの公開が理解できたから
- まずは用意していただいた資料にアクセスしてみようと思いました
- 課題解決にはなくてはならない、数値データだと実感しました
- 那覇市のオープンデータカタログサイト、省庁のページ等を紹介していただいたため
- 前から知っていた
- 資料を元に数字を見ることができた
- サイト情報を得られた

「どちらでもない」を選択

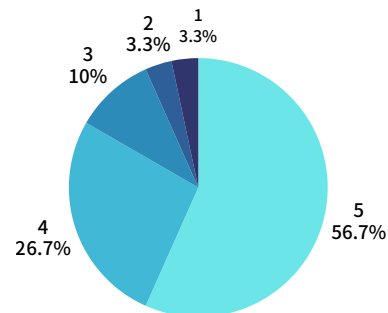
- 本来の目的がわからないですが、セミナー自体オープンデータ活用の考え方を知る導入的イベントになってるので実データを用いたハンズオンなどはない
- もう少し説明がほしかった
- 時間が短く十分理解できなかった

「知ることができなかった」を選択

- データが起点でないのが難しかった

11 アイデアソンを進める中で、観光課からの課題のインプットは参考になりましたか。

参考になった 5 参考にならなかった 1



12 選んだ理由について教えてください。

「5」を選択

- 担当課からの課題を柱に、課題を深めることができたため
- 個人視点での課題とは違い、那覇市全体で掲げている課題を知ることができました
- 以前から、職員としても、市民としても実感しているところがあったため
- 具体的な数字を聞いたから
- 進め方を理解することが出来た

「4」を選択

- 課題をわかりやすく解説していただいて参考になりました
- 沖縄ではなく那覇市自体の課題は初めて聞いたため
- ほんとうに課題なのか。データの抽出方法が気になる
- 那覇市の滞在率が低いこと

「2」を選択

- 正直課題を本気で解決させる意気込みは感じなかった、理由としては課題が漠然としすぎて不明瞭、例えば渋滞を解決したいが物理的な道路の拡張変更は難しい前提条件とか資料を多く提供したとか、結果はアイデアソンにも反映されていたと思う

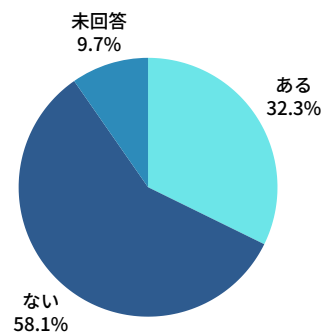
「1」を選択

- 具体的な課題指標や数値データを用いた詳細分析の提示は少なく、課題の全体像については概要レベルでの共有にとどまっていた。観光課もだけどスライド少なすぎ資料なさすぎ。ワークアウトアナログなら資料もアナログにしてせめて配布すべき

13 那覇市のオープンデータ取り組みにおいて、
今後どのような事を期待しますか。(回答から抜粋)

- 積極的にオープンにしてほしい
- より時間を長くした、アイデアソンやハッカソンまで実施されることを期待します
- 今回のような定期的な市民参加
- 課題に即したデータ取得を推進して頂きたい
- ほとんどお金をかけずに工夫できる余地はあると思う
- 観光だけでなく、医療、教育分野においても十分なオープンデータの掲載
- データ量のバリエーションと即時性を高めてほしい。また新規データが公開されたらサイトを訪問せずにわかる手段があるといいと感じました
- データの種類や数を増やして欲しい
- 仕事でも活用したいです
- 市民や企業の意見を丁寧に取り入れながら、実際の課題解決につながるオープンデータの充実を期待します
- 渋滞緩和など、実生活に役立つようなデータを期待しています
- 当イベントのようなものに参加したい
- 様々なテーマで市民が取り組めたらいいと思う。コミュニティーを作って発信してほしい
- もっと詳細な取り組みを聞きたい
- 市民の生活の利便性が改善されることを期待します

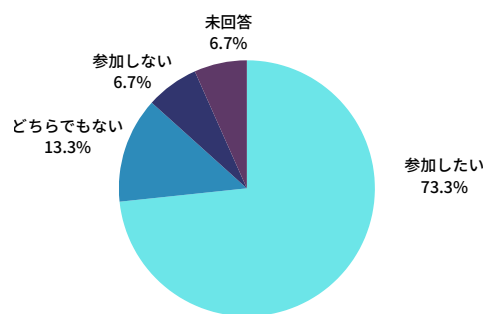
14 アイデアソンシートに書いていないデータで、
那覇市にオープンデータとして公開して欲しい
データはありますか。



15 「ある」と回答をした方、それはどのようなデータですか。

- 公共交通機関に関するデータ
- 地場産品一覧
- 渋滞情報
- アクティビティ体験ができるサービス一覧
- 選挙関連。
- リアルタイムの交通量データ
- マイカー所有率、年々あがっているから渋滞が増えたのか。
- 交通渋滞データ
- 医療DX、病院DXの参考例
- 医療機関（診療科・対応言語・夜間/休日診療・混雑状況）/高齢者向け施設（空床・サービス内容・料金目安）/AED設置場所（正確な位置+利用可能時間）/駐車場の空き状況・料金/商圈データ（昼夜人口・流入出）など

16 今後、このようなアイデアソンがあれば
また参加したいと思いますか



17 選んだ理由について教えてください。(回答から抜粋)

「参加したい」を選択

- 1人で考えるより多くの皆さんとアイデアを出し合った方が楽しいため
- また異業種のオープンデータ活用を学びたい
- 他分野の方々の考え方や物の見方に触れられて勉強になります
- とても有意義で楽しく、さまざまな立場の方の意見を聞くことができたため、また参加したいと思います
- いろんな考え方・アイデアがあることに気づかされ、勉強になった
- 楽しく有意義だった
- 関心のある人と出会える

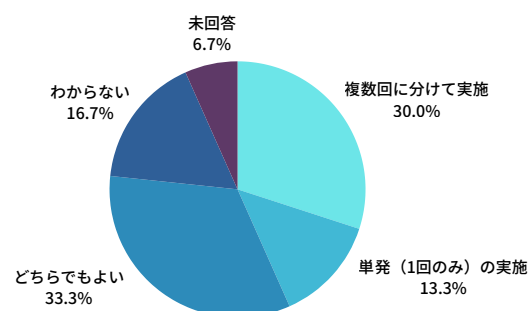
「どちらでもない」を選択

- 正直アイデアソンの時間は不要かと思います。理由としては、そもそもオープンデータが何そやの集まりなので、初回でアイデアを出しては人によってはかなりハードルが高い。まずはオープンデータの理解度用法にフォーカスして3部構成にするなど、最終的にアイデアソンであればもっと深く実用的な発想と解決策が生まれると思います

「参加しない」を選択

- 初の開催なのでわかりますが、市民目線で厳しめに、こういう活動してまずってアピールする実績の為のセミナーなら参加しないです
- あまり関心がわからない

18 今後、このようなアイデアソンがあれば
どの回数での実施がよいと思いますか。



19 選んだ理由について教えてください。

「複数回に分けて実施」を選択

- 日程的に複数回だどうしても都合つかない日が出てしまう
- 2回くらいあれば、より現実的で深い議論ができると思う
- より具体化したい、本格的に取り組みたい
- もう少し実践的なことを知りたい

「単発（1回のみ）の実施」を選択

- 時間がある時に参加したいから
- 日程的に複数回だどうしても都合つかない日が出てしまう
- 業務やイベントとの兼ね合いで複数回に分けた開催は全部参加することが難しい場合がある

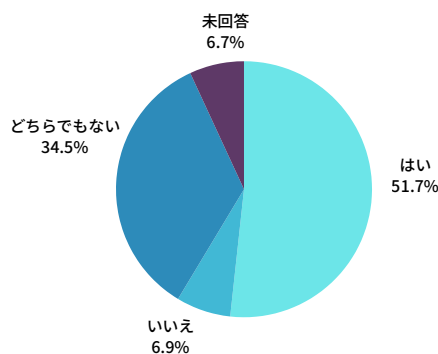
「どちらでもよい」を選択

- 内容に応じて、どちらでもいいと思います
- 単発が参加しやすいが、複数回に分けた方がより深堀できると思うので、どちらか迷います

「わからない」を選択

- テーマによって異なると感じます
- 一回のイベントが良いか、二回が良いか判断がつかない
- あまり関心がわからない

20 アイデアソンにて検討したアイデアを、ご自身
や所属する団体等で実現したいと思いますか



21 選んだ理由について教えてください。(回答から抜粋)

「はい」を選択

- 興味のある分野のため
- 今回のアイデアの実装はかなりハードルが高そう。シンプルにしないといけないと反省しました
- 普段は業務に追われていて大事なことをじっくり考える機会がないので、まずは自分だけで今回の講座でやった課題の深掘り、解決策の検討を試して、みんなに伝えられたらと思います
- 楽しそうだから
- 日ごろから社会課題や企業の課題を解決する業務を行っているので、那覇市の課題にも取り組んでみたいので
- 那覇市から沖縄県へ、途中でグループの論点がずれた為

「どちらでもない」を選択

- すぐの実現できないアイデアだったため
- 個人では難しいため
- 実現可能性が低いため
- 関係性があまりないから

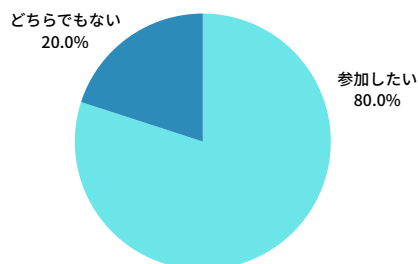
「いいえ」を選択

- 途中でグループの論点がずれた為。那覇市→沖縄県

23 【質問20】で「はい」とお答えした方は、差し支え
なければ所属や会社名を教えてください。

回答者：6名

23 今後、地域課題の解決に向けた活動に取り組む
コミュニティがあったら、参加したいですか



24 選んだ理由について教えてください。

「参加したい」を選択

- 市民でもある為
- 異業種からの課題解決を学びたいので、ぜひ参加したい
- データを社会課題の解決につなげられると、その分野が得意な方々の参加が増えそうです
- 市民スポーツ課でも健康増進、居場所づくり等につながるオープンデータを公開したいと思うためです
- 大学(社会人学生)で地域課題の授業を受けているので、より深く情報を知りたい
- 地域貢献したい。地域と会社も一緒に課題解決したい
- テーマによるが社会活動に参加したい
- 地域課題解決に興味があり、その方法を学んでみたい

「どちらでもない」を選択

- 地域課題を考えるにあたって、税金投入する集まりならなおさら本気で取り組みたいし参加したいです。逆に本気でないアイデアソンは開催自体不要です

25 コミュニティ活動を行うためには行政からどのような支援が必要だと考えますか

(回答から抜粋)

- 小口助成+伴走支援（書類を最小化）
いちばん即効性がある。活動側の“最初の一步”と“継続”の壁（資金・事務負担・人手）を同時に下げられるので、成果が出やすいかと。相談窓口のワンストップ化（補助金・許認可・広報）コミュニティ活動が止まる原因の多くが「手続きが分からない／たらい回し」。ここを潰すと、助成金や施設利用など他施策の効果も一気に上がります。
活動拠点の確保（公共施設の使いやすさ改善）
お金より先に「集まる場所がない」で詰むケースが多いので、予約一本化システム導入など・夜間休日・Wi-Fi/電源・備品・保険セット化はかなり有効ではないでしょうか。
- 協力体制（どのように課題実現できるか相談窓口）
- 情報発信
- 無料で参加できる施設や会場の提供。定期的な有識者のアサイン
- オープンな機会の提供
- 議論できる場（きっかけ的にも物理的な場所も）の提供
- 専門家の配置と活動に必要な資金援助
- 行政が真面目に取り組んでも解決できない事をコミュニティで考えてアイデア若しくは答えを出してほしい助言頂きたいというセミナーの話であれば、このQ25は行政側が支援してほしいって事ではないでしょうか？今回のセミナーが無関係の話であればコミュニティ活動そのものが昔と比べて那覇市は減っていると思うので、過去なぜ活動が盛んであったか、他に現在でもコミュニティ活動が盛んな地域はなぜ維持できているか等、比較・深掘して原因を少しずつ潰していけば答えがでるかと思えます
- 個人的にはキャリアアップに繋がるとか、実際に自治体、企業さんの課題に取り組む実践的なプログラムに参加してみたいです
- 今回のようなセミナー
- ファシリテートをお願いしたい
- 関係課職員とのつながり、頑張った成果が行政施策に活かされていることの見える化が必要だと思います

26 感想・質問、その他気づいたことをお書きください。(回答から抜粋)

- とても勉強になりました
- データ分析に係る支援ができるならお声がけいただきたい
- スキルアップを図りたい
- 非常に有意義でした。また参加したいです
- 時間通りの進行素晴らしかったです
- 同じ課題でも、個人個人の興味や関心、得意分野、経験等から解決策が生まれてくるのがとても面白く、それを実行できない自分に悔しささえ感じました。ですがこの機会を活かし、自分の活動に役立てたいと思います。本当にありがとうございました
- 論点がずれているチームもあったので、途中でサポーターが修正してもいいのかなと感じました
- 終日使ったプログラムでも良かったと思う
- 最後まで受講できず残念でしたが、とても楽しく勉強になりました。民間の方々が那覇市のために真剣にアイデアを出されている姿を通して、オープンデータを公開する意義を改めて強く感じました

アンケート考察

本アイデアソンの参加者は20代から50代まで幅広く、特に40代・50代の参加が多い傾向にありました。所属・職業では会社員が最も多く、IT関係者、自営業、医療関係者、公務員、那覇市職員など多様な構成となっています。

年代別では、アイデアソンへの満足度に大きな評価の差は見られませんでした。所属別では那覇市職員や医療関係者は満足度が高く、IT関係者はやや低めの傾向が見られました。データへの知見が高いと思われるIT関係者にとっては、初学者向けの本アイデアソンは、すでに知っている内容であった可能性が高いと思われます。

ただし、全体としては多くの参加者が高い満足度を示しており、幅広い年代および属性の参加者を対象とした取組として、概ね適切な内容およびレベルで実施できたものと考えられます。

職員と市民双方に高い満足度が見られ、地域課題に向き合う共創の場となった

本アイデアソンの満足度（Q5）は4以上の回答が大多数を占めており、全体として高い評価を得ました。那覇市職員と市民参加者の間で極端な満足度の差は見られず、立場によらず一定の評価を得ていることが確認できます。

コミュニティへの参加意向（Q23）については、「参加したい」と回答した方が24名（約80%）にのぼり、再参加意向（Q16）も高い水準にあります。これは、本アイデアソンが単発のイベントにとどまらず、地域課題の解決に向けた活動に取り組むコミュニティ参加へのきっかけに繋がることを示しています。

アイデアの実現意欲（Q20）については、全体の半数が「実現したい」と回答しており、特に那覇市職員は全員が「実現したい」と回答しています。市民側にも一定の実現意欲が見られたことから、本イベントは行動につながる可能性のある対話が行われたことが分かった。

以上の結果から、本アイデアソンは、満足度が高く、継続意向・実現意欲も確認できることから、参加者同士が意見交換を行う「対話の場」として、一定の成果を上げたものと考えられる。

課題を深く理解し、具体的なデータ要望

公開してほしいデータ（Q13、14）について、一定の参加者が具体的なデータ要望を挙げています。データの要望の有無と、観光課からの課題のインプット評価（Q11）を比較すると、要望を出した参加者の方が課題インプット評価の平均値が高い傾向にありました。

コミュニティ参加意向（Q23）との関係では、要望ありの参加者の方が「参加したい」と回答する割合が高い傾向が見られました。

これらの結果から、「那覇市の課題をどれだけ深く理解したか（Q11）」と関連が強い可能性が示唆されます。つまり、課題を具体的に考えた結果、必要なデータが明確になったと考えられます。

職員は市民の声をアイデアソンにて聞くことができた

那覇市職員のアイデアソンの再参加への自由記述（Q17）では、「さまざまな意見を聞くことができた」など、対話の価値に言及する回答が見られました。実現意欲（Q20）では、那覇市職員全員が「実現したい」と回答しています。

これらの結果から、職員は市民との対話を通じて、オープンデータ活用の可能性を知るきっかけになったと評価できると考えられます。

オープンデータの取得方法を理解できた

オープンデータの取得方法（Q9）について、ほとんどの方が知ることができたと回答していました。講義資料による解説と合わせて、オープンデータ一覧の配布を行いました。

それによって、どのサイトからオープンデータを取得すればよいか分かったとの声が見られた。今後も、紹介したオープンデータのサイトなどは、参加者がイベント中や持ち帰った後に確認ができるよう、一覧を用意することがオープンデータを今後使ってもらうためには必要であると考えられます。

アイデアソンから見えてきたこと

本アイデアソンは、参加者から概ね高い評価を得ており、運営面および内容面の双方において満足度の高いイベントとなりました。参加者の年代や所属は多様であり、那覇市職員も参加する構成となっていたことから、異なる立場の視点が交わる場が形成されていたといえます。こうした多様な参加者が同じ地域課題について議論することにより、課題の捉え方や解決の方向性について多角的な意見が生まれていました。

講座終了後も地域課題の解決を行うコミュニティがあれば参加したいと考える参加者がみられ、アイデアの実現や継続的な活動への関心も確認されました。これらの結果から、本アイデアソンは単発のイベントとしての体験にとどまらず、参加者の関心や意識を高める機会として一定の成果を上げたと考えられます。特に、市民と行政が同じ場で課題について議論する機会が生まれたことは、今後の共創の取り組みに向けた重要な一歩であったと評価できます。

今後の取り組み

今回のアイデアソンでは、那覇市の「観光経済」をテーマとしてデータ活用の可能性を考える機会となり、データ活用への関心や意欲が生まれたことが確認されました。今後は、こうした関心や意欲を実際の取り組みにつなげていくことが重要になります。そのためには、アイデアソンで生まれた議論やアイデアを継続的に発展させるための場や仕組みを整えていくことが求められます。行政と市民が継続的に意見交換を行いながら、地域課題に対する理解を深め、必要なデータや活用方法を検討していく機会を設けることが重要です。

また、地域の課題やデータ利活用、オープンデータについて学ぶことで、データの必要性の認識に繋がる傾向がみられたことから、今回のようなアイデアソンを継続的に実施していくことも有効と考えられます。

こうした取り組みを通じて、行政と市民が共に「オープンデータ利活用の当事者」として、地域課題の解決を目指す環境が育まれることが期待されます。